

流山とりだより

流山野鳥同好会

No.151

2025年4月10日



- あなたは、だあれ？
さてヒタキ類ですが、モノクロ写真なので分かりにくいですね。
答えは19頁をご覧ください。なかなかの難問です。

2025.01.05 理窓公園

撮影：森岩 好明

観察会から

● 1月19日（日）（第302回）定例観察会 利根運河・理窓公園

2025年1月19日

菅野文夫（写真：菅野文夫、宮原 誠）

晴れ曇り・2℃・風速1m/s

曇りとの天気予報でしたが、いざ始まってみると暖かな日差しが降り注ぐ絶好の探鳥日和でした。新年最初の観察会は、総勢21名でスタートしました。

まずは運河駅を出発し、水鳥を目指して利根運河イベントステージに向かいます。すると早速、カワセミの姿を発見！一同、慌てて双眼鏡を構えましたが、残念ながら間に合わずがっかりです。後述しますが、実はこの日は「カワセミ祭り」と呼べるほど多くのカワセミに出会える日となりました。

イベントステージから運河を眺めると、ヒドリガモ、カルガモ、オオバンたちがのんびり泳いだり、丘に上がって草を採餌したりする姿が見られます。すると、突然視界の隅にシギが2羽弾丸のように水上を飛翔するのを発見。タシギでした。遠くに止まったためスコープでの観察が必須でしたが、水際にいたかと思えば土手を上ったり下ったりと、しばらく楽しませてくれました。

浮橋を渡った向こう岸で、本日2度目となるカワセミを観察。その後、浮橋の欄干の上に止まる3度目のカワセミを発見しました。「水辺の宝石」と称されるその姿は、観察会序盤の主役として一同を盛り上げてくれました。

運河沿いを歩きながら、眼下に広がる運河の兩岸に目を凝らして鳥たちを探しました。獲物を狙うモズ、仲睦まじいペアのように見えるマガモ、そしてカルガモやシジュウカラ、メジロ、ウグイス、アオジなど、多彩な鳥たちの姿を観察することができました。

ところで、今シーズンはツグミをほとんど見かけません。ここ運河でも同様で、全く姿を確認できませんでした。昨シーズンも飛来が遅く、数が少ないと話題でしたが、さらに減少しているように感じます。山中に食べ物が豊富で平地に来る必要がないのか、それとも個体数自体が減少しているのか…。簡単に見られた鳥が見られなくなるのは、寂しいものです。

理窓公園の五葉松に到着し、運河の斜面を下りながら公園内へ進みます。前日の下見ではシロハラやトラツグミが確認できたため、大きな声を出さず、音を立てず、一列に並んで慎重に進みました。しかし、鳥影はなく、鳴き声も聞こえず、気配すら感じられません。けどこれも探鳥の醍醐味。簡単に見られたら面白みが半減してしまいます。

ひょうたん池にて本日4度目のカワセミを観察。カワセミでお腹いっぱいになれるとは、なんて贅沢な観察会でしょう。



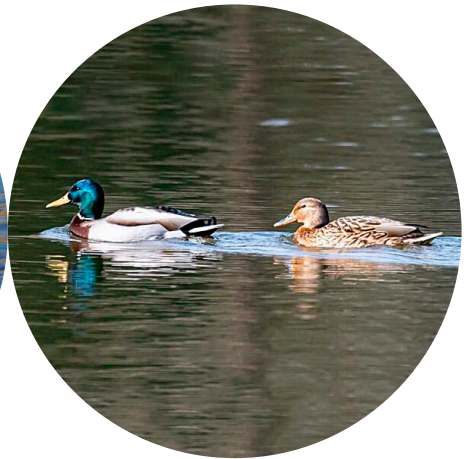
「カワセミ祭り」の始まり～



ヒドリガモ



コガモ



マガモ



アオジ



モズ



シジュウカラ

続いて、次の目的地であるヨシ原へ向かいます。下見時までこのエリアに入れることを知らなかったのが、新しい発見でした。ここではシジュウカラ、アオジ、エナガ、ウグイスなどが右へ左へ飛び交う様子を楽しめました。

シラサギの池沿いを歩きながら、樹上のコゲラやメジロを観察し、カッコウ高原ではルリビタキの雌を確認することができました。

最後の目的地、白鳥の池では、トモエガモを探しましたが見つけられず。昨年の観察会も一日で抜けてしまったので、今回も同じように群れのもとへ移動してしまったのでしょうか。いずれ、印旛沼の観察会も企画したいと思いました。

鳥合わせの結果、約3時間の探鳥で合計34種を確認することができました。大学共通テストと重なり、トイレが使えない不便な状況もありましたが、まずまずの成果と言えます。ご参加いただいた皆さま、お疲れさまでした！

<参加者の皆さんから>

●ルリビタキをはじめて見られてよかったです。数多くの野鳥がいきいきとしていて自然の美しさを感じることができました。(和田涼甫さん)

●5回のカワセミ出現！雌雄観察出来て、紅さず唇♪に心躍りました。アオジ、「春には青いめじろ追い♪」と、『青』のお話の色への興味も増し、さらにトラツグミ→「鶴の鳴く夜は」の『声』のお話と…道中益々充実♪帰宅後はちあきなおみの「柿の木坂の家」を聴き、横溝正史を読みたくなる、帰ってからも楽しい観察会でした。(太田桐門史子さん)



ルリビタキ♀



エナガ



18日にいたトモエガモ

◆観察した鳥

カイツブリ、カワウ、アオサギ、コサギ、ハイタカ、ノスリ、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、バン、オオバン、タシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、トラツグミ、シロハラ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

以上 34 種

◆参加者

伊東 孝、留守康輔 (小3)、今泉好美、遠藤悦子、大渡 修、
太田桐門史子、川上和雄、菊池和子、菅野文夫、鈴木淑子、
相馬利雄、相馬由佳、塚本清美、服部洋之、服部雅子、
増田久美子、宮原 誠、森田洋一
(会員以外 片岡多壽子、加藤 功、和田椋甫)

以上 会員 18 + 3 = 21 人



鶇の鳴く夜は・・・恐ろしい

会員の M さんからトラツグミを確認したとの報告がありました。野鳥の森の木（写真奥の樹々）にとまっていたその姿は、羽がうろこのような黒と黄色が特徴で、M さんも大変印象的だったと仰っていました。夜は「ヒョー、ヒョー」という口笛のような気味の悪い声でさえずる鳥で、以前は家の近所でも聞くことができましたが最近のご無沙汰しています。2 日連続で確認できたので暫くはこの地に居るつもりなのかも知れません。漂鳥ゆえいつまで居るか分かりませんので、ご興味ある方はぜひ探しに行ってみてください！

観察会から

● 2月16日（日）（第303回）定例観察会 大畔の森・水鳥の池

2025年2月16日

相馬利雄（写真：東原 聡、宮原 誠、川上和雄）



2024.2.18



2025.2.16

広報活動が実り、初石駅前には正会員17名+初参加者（お子さんも含め）17名のみなさんが集まりました。また会員からの貸し出し双眼鏡も10台以上となり、充分に手当てすることができました。急な呼びかけにも関わらずご協力いただき、ありがとうございました。

さて、久しぶりの大所帯で始まった観察会とは言いまして、「大畔の森」に昨年同様に「ノスリ」が鎮座していたのであります。たぶんこの「ノスリ」、昨年と同じ個体だろうと思うのです。警戒心の強い猛禽類がこれほどの近距離で、また30名ほどの人間に気づきながらも逃げもせず。通常ならありえません。この森の主らしい太っ腹な「ノスリ君」に敬意を感じました。

「おおたかの森」を散策し「水鳥の池」へ向かう途中、つくばTXの高架下で聞きなれた声に気づきました。オスの「イソヒヨドリ」が電車に負けじとさえずっています。上半身のみでしたが色鮮やかなハンサムボーイでした。

「水鳥の池」ではコガモ、オカヨシガモ、バン、オオバンなど。よくぞ見つけた対岸のオスのキジ、そしてダイビングする本物の「カワセミ」を見ることができ、やっと安堵することができました。（初めにカワセミのフィギアで双眼鏡の練習をしましたので）

最後に会員のみなさん、初参加者へのフォロー、ありがとうございました。集合時にはどうなることかと動揺しておりましたが、安心安全に楽しく終了することができました。同好会の、これまでとは違う魅力が芽生えてきましたね。引き続きよろしく願いいたします。

<参加者の皆さんから>

●たくさん歩き双眼鏡を借りられて話せて楽しかった！

色んな散歩のコースがしれて楽しかった。良かったです！

（井上大樹さんご家族）

●最後の鳥合わせで、自分では見つけられなかった鳥が多くいたことを実感しました。鳥を覚えたいと思ってもなかなか覚えられず、くわしい人と一緒に観察するのは良い機会だと思いました。ご一緒させていただき、ありがとうございました。

（若林弘行さん）



イソヒヨドリ



モズ



ヒヨドリ



ハクセキレイ



オカヨシガモ



シジュウカラ

- 初参加でしたが楽しく参加をさせていただきました。ありがとうございました。(田近拓巳さん)
- モズ、イソヒヨドリ、ありがとうございました。(田村和代さん)
- 鳥の鳴き声で判断できるようになりたい。もっと知識を増やしたいと思いました。また参加させてください。(嶋根美佐江さん)
- 初めての参加でしたが思ったより多くの鳥を見られて、この地域にこんなに多くいるのかと思いました。ノスリが見られて良かったです。またタイミングが合えば参加したいです。(中村智之さん)
- 鳥が見れて楽しかった。(鈴木ふうせいさん)
- とても楽しく半日を過ごせました。次回も機会があれば参加させていただきたく思います。(無記名)

◆観察した鳥

カイツブリ、ノスリ、オカヨシガモ、コガモ、キジ、バン、オオバン、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、シロハラ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス

以上 28 種



水鳥の池の周囲を間伐しました。間伐前、



そして間伐後です。

◆参加者

今泉好美、遠藤悦子、大渡 修、太田桐門史子、川上和雄、菊池和子、
菅野文夫、鈴木淑子、相馬利雄、塚本清美、服部洋之、服部雅子、
東原 聡、増田久美子、宮原 誠、森田洋一、和田椋甫
(会員以外 嶋根美佐江、西 博昭、桑原宣義、若林弘行、鈴木弘史(2)、
近澤 宏、中野正巳、田村和代、田村佳生、田近拓巳、田近芙美子、
中村智之、井上大樹(4)

以上 会員 17 + 17 = 34 人



何と大所帯！

観察会から

● 3月2日（日）再び水元公園（カワウ覗き窓の先へ）

2025年3月2日

菅野文夫（写真：東原 聡、宮原 誠）

2025年3月2日（日）AM 晴れ曇り・13℃・風速1m/s

この日は北東の風が1m/sと穏やかで、春を思わせるような暖かな陽気に包まれた絶好の探鳥日和でした。気温は15度前後と過ごしやすく、野鳥観察には最適な条件が揃っていました。噴水広場に集合した総勢12名の参加者とともに、小合溜沿いを歩きながら水鳥の観察を開始しました。



「猛禽デー」の幕開け！

最初に目に入ったのはユリカモメです。10羽ほどの群れが水面を漂い、時折飛び立つ姿が印象的でした。続いて、杭の上で羽を広げて乾かすカワウが視界に入りました。カワウは翼を広げて日光浴をする習性があり、その姿はまるで古代の翼竜のようでした。

さらに、カイツブリやカンムリカイツブリも観察できました。まだお腹が満たされていないのか、水中に潜ってばかりでした。その素早い動きについていくのがやっとでした。

続いて、この地では外せないキンクロハジロとホシハジロの群れを観察します。今シーズンは数が大分少ないとのことでしたが、それでもあちこちに点在する数をざっとかぞえると数百に上ります。彼らの大半は、嘴を羽毛の中に突っ込んで休んでいる「鴨の浮き寝」状態でしたが、その美しい羽色のコントラストを十分に堪能できました。アカハジロ×ホシハジロの交雑種が1羽だけ入っているとの情報があったため、見える範囲のホシハジロを1羽1羽丁寧に探しましたが今回は出会えませんでした、ザンネン！

進行方向左側のメタセコイアが茂るエリアでは、カワラヒワの群れ12羽が地面に降りて採餌していました。また、カラスが枝をくわえて巣の補修をしていたり、お馴染みのヒヨドリやムクドリたちが飛び交って賑わいを増してきました。

次に訪れたガマ田では、アオジ、シジュウカラ、キジバト、ムクドリ、ツグミ、アカハラなど、さまざまな小鳥たちが観察できました。特にアオジは、その鮮やかな黄色い羽が目を引きました。シジュウカラは木の枝を元気に飛び回り、「ツツピーツツピー」とのさえずりがあちこちから聞こえてきて春の訪れを告げていました。クイナやヒクイナは、とても警戒心が強い鳥なのでなかなか出会えない野鳥の一つです。ガマの茂みに隠れていないか目を皿のようにして探しましたが、残念ながらタイムアップ。それでも多くの小鳥たちに出会えたことに満足感が溢れていました。

バードサンクチュアリに入ると、「ケッケッケッケッ」という猛禽の警戒する鳴き声が響き渡りました。それは、本日のハイライトの一つとなったオオタカでした。樹上の枝に止まるオオタカの姿がはっきりと捉えられ、一同はその威風堂々とした姿に釘付けになりました。この瞬間から、「猛禽デー」の幕が開けました。

5番観察窓では、ダイサギ、コサギ、アオサギを観察しました。特にダイサギとコサギは純白の羽が眩しくそして美しく、杭の上で優雅に羽繕いをする姿がゆっくりと観察できました。もちろん、ここから見られる定番の営巣地に集うカワウたちも健在でした。

水生植物園では、カワセミの声を初めて確認し、一同は期待を膨らませましたが、残念ながら姿を見つけることはできませんでした。しかし、その代わりに上空をオオタカが帆翔する姿を見ることができました。これは本日二度目のオオタカとの遭遇で、その雄大な飛翔に一同が感動を覚えたのは言うまでもありません。

グリーンプラザでトイレ休憩をとっていると、再びオオタカの帆翔を確認しました。すると、オオタカと比べて半分以下の小さな鳥が追尾しているのが見えました。それはツミのメスでした。ツミは気性が荒く、自分より倍以上も大きなオオタカをものともせず攻撃を仕掛けます。その勇敢な姿に一同は驚きと感嘆の声を上げまし



カイツブリ



キンクロハジロ



ホシハジロ



アオジ



ツグミ



隠れんぼの名手

た。

カワセミの里を目指す途中にて、カワセミの追いかけっこを何度も目撃しました。3月初旬は繁殖期が始まるので、なわばり争いなのか？それともペアリング行動なのか？理由は定かではありません。しかし、その活発な動きに一同は心を奪われました。そして、アオサギが悠々と飛行する姿も楽しみつつ、水生植物園では見られなかったオカヨシガモも観察することができました。

ゴールが間近に迫ってきたとき、なんとこの日4回目の猛禽に遭遇しました。それはオオタカの幼鳥でした。落葉樹の枝がもやもやと交差しているのと同化しているため、目を凝らすもその存在をなかなか確認することができず、一同もモヤモヤ感が募ります。まるで擬態でもしているかのような、見事な保護色でした。

カワセミの里では、ゴイサギの成鳥を観察しました。惜しくも目標の40種には届きませんでした。合計で38種の野鳥を確認することができました。特に、オオタカを至近距離で見ることができたことで、大満足の観察会となりました。

観察会に参加する魅力とは、単独の探鳥では見過ごしがちな野鳥たちを、皆で力を合わせて探すことで沢山の鳥たちを観察することが可能になることだと思います。その日その時にしか見られない瞬間に出会えることに感謝ですし、特に今回は猛禽類のドラマチックな姿が印象的でした。この日の観察会を通じて、水元公園の魅力が再認識することができました。年に1度は訪れたいですね！

【追伸】

バスの時刻表、古い情報のまま掲載してしまいご迷惑をお掛けいたしました。以後気をつけますのでご容赦ください。

<編集から>

水元公園は人も多のですが鳥も多いです。それに鳥たちとの距離が近い。先ずは広くそして深く、これからも観察していきましょう。



あなた美女ですね。



恐れ知らずのじゃじゃ馬娘



優雅な飛行姿ですね

◆観察した鳥

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、
ゴイサギ、ツミ、オオタカ、ヒドリガモ、オカヨシガモ、コガモ、カルガモ、
ホシハジロ、キンクロハジロ、オオバン、イソシギ、ユリカモメ、キジバト、
カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、アカハラ、
オオアカハラ、シロハラ、ツグミ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、
カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、
ハシブトガラス

以上 38 種

◆参加者

伊東 孝、川上和雄、菊池和子、菅野文夫、相馬利雄、塚本清美、
服部洋之、東原 聡、増田久美子、宮原 誠、吉田令子、和田椋甫

以上 会員 12 人



なんか熱かった一日でした

このたび、市内で活動する団体同士の交流イベントとして、ボーイスカウト流山第5団様とのコラボレーション企画「野鳥観察会 at 水鳥の池」を開催いたしました。

<概要>

- 目的：野鳥を通じた観察力と探求心の育成、自然や生態系の理解（環境教育の推進）
- 日時：2025年2月9日（日） AM9:00～AM11:40
- 場所：水鳥の池、市野谷の森周辺
- 参加者：【ボーイスカウト流山第5団】24家族
【流山野鳥同好会】6名（菊池和子、落合 聡、大渡 修、東原 聡、菅野文夫、相馬利雄）

<ハイライト>

STAGE 1 事前説明

はじめに、子どもたちに知っている鳥を質問しました。当初、ハトやカラスなどの身近な鳥どまりではないか？と想像していましたが、ルリビタキやオオルリ、カッコウなど、流山では珍鳥となる鳥名が次々と出てきてびっくりしました。なかには、オオタカやカワセミを見たことがあるという強者もいました。さすが、ボーイスカウトの皆さんは一味違うなと唸りました。そうして、子どもたちの元気な声を聞いているうちに、少しでも多くの鳥を見せてあげたいとの意を強くしました。

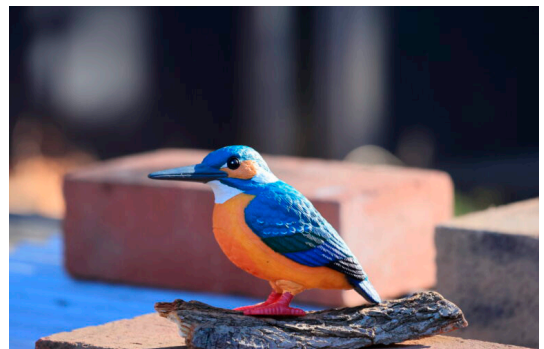


突然トビが現れて・・・

説明している最中に、突如トビが現れて上空を帆翔しました。肉眼でも十分に見られる高度であったため、皆でその雄姿を堪能しました。「行ってらっしゃい、楽しんできてね！」とエールを贈られてる気がしました。

STAGE 2 道具の使い方と注意事項

カワセミのフィギュアを遠くに設置して、スコープで覗きながら使い方を練習しました。双眼鏡やスコープのピントを合わせてカワセミの特徴を学びます。初めて触れるスコープに、子どもたちも悪戦苦闘です。



ピントは合ったかな？

STAGE 3 観察会開始

市野谷の森沿いを歩きながら、チームごとに鳥たちを探します。ヒヨドリ、メジロ、ハクセキレイ、モズ、シジュウカラ、アカハラなどに出会うことができました。各チームでは、5年生がリーダーを務めてチームをまとめてくれたおかげで、バラバラになることなく円滑に進行できました。さすが、ボーイスカウトの活動で野外活動に慣れているだけあって、感心するばかりです。



チームごとに観察開始

STAGE 4 水鳥の池へ

水鳥の池では、風速10m/s近い強風が吹き荒れたこともあり、鳥たちもじっとしていたのか期待したほど姿を現してくれませんでした。アシ原の隙間から、身を潜めたマガモ、コガモ、カルガモ、オオバン、カイツブリ、ダイサギ、コサギ、アオサギなどの水鳥を観察することができました。B,Dチームでは、ラッキーなことにタシギを観察できたようです。



ホオジロです

STAGE 5 観察会終了

わくわくの森に戻り鳥合わせを行いました。普段同好会で使っているチェックリストとは一味違う、ボーイスカウト流山第5団用特製の写真入りチェックリストです。

探鳥をする上であまり良いコンディションとは言えませんが、計23種とまずまずの観察結果となりました。鳥合わせをしている最中に、エナガの群れがやってきました。

「今日はおつかれさま。また見にきてね！」

野鳥(やちよう)チェックリスト				合計	種		
1	スズメ 14cm	11	ハシロ 23cm	21	ヒヨドリ 48cm	31	モズ 20cm
2	ムナドリ 24cm	12	オオハシ 39cm	22	シジュウカラ 14cm	32	ツグミ 24cm
3	ヒヨドリ 27cm	13	アオサギ 85cm	23	カワサヒワ 15-16cm	33	シロハシ 24cm
4	カイツブリ 33cm	14	ダイサギ 55-104cm	24	メジロ 12cm	34	アカハシ 24cm
5	ハクセキレイ 21cm	15	コサギ 61cm	25	コサギ 15cm	35	カササギ 17cm
6	ヒヨドリ 27cm	16	マガモ 61cm	26	エナガ 14cm	36	イソヒヨドリ 25cm
7	ハシロ 23cm	17	コガモ 38cm	27	キジ 80-89cm	37	オオハシ 24cm
8	ハシロ 23cm	18	マガモ 61cm	28	ホオジロ 16cm	38	トビ 58-69cm
9	カワウ 81cm	19	オオハシ 39cm	29	アサギ 16cm	39	ノスリ 52-57cm
10	カイツブリ 26cm	20	ハシロ 23cm	30	カゲロウ 15cm	40	キョウゲンボウ 33-38cm

特性写真入りリスト

<事務局よりひと言>

当会にとって初めての交流イベントとなりました。無事に終了できたのは、ボーイスカウトとバードウォッチングの親和性の高さもさることながら、子どもたち一人ひとりが好奇心旺盛に探鳥を楽しんでくれたこと、そして隊長ならびにご家族の皆さまのご尽力のおかげです。ご参加いただいた皆さま、この度は誠にありがとうございました。

当会は、野鳥の観察を通じて自然に親しみ、市民の皆さまに自然を尊重する心を育み、人と自然が共生する社会に貢献することを目的として活動しています。今後も、市内の団体様とのコラボ企画を通じて、より多くの市民の皆さまに流山市の野鳥の魅力を知っていただくきっかけとなれば嬉しく思います。

<特別寄稿>

大沼公園探鳥レポート

文・写真 宮原 誠

1月の3連休後の閑散期を狙い北海道の大沼公園へ向かいました。目的はシマエナガの撮影です。昨年の10月に千歳を始め数カ所を訪れましたが、シマエナガに遭遇出来ずそのリベンジです。

大宮から始発の東北新幹線はやぶさ1号に乗車し、新函館北斗駅経由で函館駅に向かいました。暫し観光後、路面電車に乗り込み宿泊先のホテルが有る五稜郭駅前で下車、吹雪の中大荷物を引きながら向う事になりました。今までの北海道の旅は、寝台特急や大洗からのフェリーを利用しており、ちょー長旅でした(40数年間、航空関係の仕事をしておりましたが、飛行機は大の苦手です)。

さすが、新幹線はやぶさは早い！大宮駅から4時間で北海道に到着、最高速度は時速320kmらしいです。比較する意味は全く無いのですが、ハヤブサ目ハヤブサ科ハヤブサ属のハヤブサは時速389kmで世界一の速度で急降下するとの事。



「東北新幹線はやぶさ」より早いハヤブサ
(2022年11月鷹匠イベントにて撮影)

前置きが長くなりましたが、翌朝、大沼公園駅横の観光案内所で既に申し込んでいたシマエナガツアーに参加。総勢8名で約2時間のツアーが始まりました。

気温はマイナス9度、晴天で時折小雪がちらつく天候でしたが、風も無く思ったほど寒さは感じ無く気分は最高でした。野鳥の鳴声を頼りに黙々と歩き続けると、数カ所の樹木からドラミングの音が聞こえ、見上げた先にキツツキを発見！取り敢えず写真を撮りました。立て続けにパシャリまくりしましたが名前は全く分からず、自分の中では全部キツツキ！間違いない！その後ネットでプロフィールを確認しました。その他の野鳥はシジュウカラ、シロハラゴジュウカラ、コガラ、ヤマガラ、ミソサザイなどは確認できましたがシマエナガは現れず。



大沼国定公園



大沼観光案内所



エゾアカゲラ



エゾコゲラ



オオアカゲラ



ヤマガラ

さらに雪深い小道を進むと、大きな穴の空いた樹木が現れました。するとガイドさんがおもむろにカバンから出したのは一枚の鳥の絵でした。クマゲラです。この穴はクマゲラがドラミングして空けたとの事で一同びっくり??クマゲラは最大のキツツキらしいです。天然記念物のクマゲラは半径6kmの範囲に1羽と説明を受け、滅多にはお目にかかれなないなと思いました。その時は……。結局、シマエナガの鳴声は確認出来ましたが、撮影は出来ず諦めてホテルへ帰り、翌日再訪することとしました。



黄色いリュックが妻です



写真を撮パシャリ!



クマゲラ



カバンから出したのは・・・



2日目は前日と違って猛吹雪。衣服に積もる雪を払い落としても全く濡れる事もなくサラサラな雪でした。また、湖面はすでにスケートリンク化しており広大な風景も楽しむ事ができました。初日と同じルートを散策しましたが、シマエナガに遭遇しなかった為、範囲を広げ1km先の湖月橋まで行くことにしました。

途中小洒落たレストラン前の橋の上から辺りを見渡していたところ、何やらドラミングの音がして、見つけたのはカラス！だと思ったのですが、よく見ると赤いベレー帽姿のどこかで見たようなー???！昨日ガイドさんが説明されていたクマゲラでした。半径1km圏内でラッキーでした！こんなに早く、しかも近くでお目にかかれるとは思ってもよらず夢中でシャッターを押しましたが、AFが雪と前景の小枝にピントを合わせてしまいボケを連発、MFに切替えて目にピントを合わせました。これらのシーンで60枚ほど撮影、挨拶がわりに振り向いてくれた後、吹雪の中に姿を消しました。

暖炉の火が優しく迎えてくれた小洒落たレストランで昼食をとりました。私のバズーカ砲を見て驚いていた店員さんと暫し野鳥の話で盛り上がりましたが、長年住んでいてもシマエナガには滅多に遭遇しないシクマゲラも見た事が無いと。さらにキクイタダキの話題にもなり、知り合いのカメラマンも夢中になって探しているとの事でした。そして、見せていただいたのは手のひらで佇んでいるキクイタダキの写真でした。話によると、お店の窓ガラスが透明で大きい為、野鳥が勢いよくぶつかってくる事が何度か有るらしいのです。たまたま、窓の下に気絶し落ちていたのがキクイタダキだったそうです。その後元気に回復して野に放したそうです。



最終日のこの日は青空が・・・



シロハラゴジュウカラ

シマエナガに遭遇出来ず、悔しいので3日目も同じルートを回りました。快晴と吹雪が目まぐるしく変化していた2日間とは違い、最終日のこの日は青空が多くシマエナガに会えることを期待しておりました。シロハラゴジュウカラも数が多く、木の幹を上から下からと大忙し、下を向きながら歩く姿がとても可愛い小鳥でした。途中で出会った探鳥中の若いご夫婦と暫しシマエナガ談議、地元の方の様でまだ“エナガ”を見た事が無いので、今度関東に行ってみたくと贅沢な事を言っていました。結局、最終日にもシマエナガには遭遇出来ず、予想外のキツッキツアーとなった3日間でした。

最後に——大沼公園駅前の食堂で7年働いている年輩の方は、シマエナガを一度も見た事が無いそうです。数年前からブームに乗り遅れまいと気には掛けているらしいですが。シマエナガを見た事が無い人、滅多に遭遇しない人、毎日目撃しているなど様々な方に出会えました。相手は野鳥、必ず遭遇出来るという保証は無い事を改めて感じ、一期一会を楽しみました。そして広大な土地で暮らす野鳥、津軽海峡分布境界線（ブラキストン線）以北に住む各亜種に魅了された良い旅となり大沼公園駅を後にしました。

編集部より：宮原さん、冬の北海道での探鳥記と素晴らしい写真をありがとうございます。シマエナガは残念でしたが、クマゲラに出会えてよかったですね！鳥との出会いは一期一会。必ずしも見たい鳥に会えるわけでもないけれど、予想もしていなかった鳥に出会えることもある。バードウォッチングの大きな魅力のひとつだと思います。



隣駅のおおぬま駅でパシャリ

◆鳥だより——フィールドノート拝見

この冬の流山と近隣地区の観察記録です。今年は冬鳥の小鳥の入りが遅く、ツグミやアオジは冬も終盤になってからよく見られるようになりました。みなさんのフィールドではどうだったでしょうか。

新川耕地・江戸川地区

- 12月29日 …クサシギ (2) 若林幹夫
 1月4日 …ホオジロガモ (♀2)、コガモ、カルガモ、オオバン、カイツブリ、カワセミ 若林幹夫
 1月5日 …タゲリ、タヒバリ、ハクセキレイ、カイツブリ、カワウ、カルバモ、コガモ、ヒドリガモ、
 オオバン 若林幹夫
 1月6日 …アオジ、ジョウビタキ (♂)、ツグミ、エナガ・カシラダカ、シメ、カワセミ 塚本清美
 1月14日 …ジョウビタキ (♀)、カシラダカ、ツグミ 塚本清美
 1月24日 …ケリ、チョウゲンボウ、タヒバリ、ツグミ 塚本清美
 1月25日 …カシラダカ、ツグミ、ジョウビタキ (♀) 塚本清美
 2月3日 …カシラダカ、ツグミ、ジョウビタキ (♀) 塚本清美
 2月21日 …チョウゲンボウ、カルガモ、ツグミ 若林幹夫
 2月24日 …ホオアカ、イカルチドリ、チョウゲンボウ、ツグミ、モズ 若林幹夫
 3月8日 …カイツブリ、オオタカ 若林幹夫
 3月9日 …ケリ、ノスリ 若林幹夫
 3月10日 …チョウゲンボウ、ケリ、ツグミ、ムクドリ 森岩好明
 3月23日 …カワウ、コサギ、アオサギ、コガモ、カルガモ、オオバン、ハクセキレイ、
 セグロセキレイ、ツグミ、ホオジロ、カワラヒワ、タヒバリ、コチドリ 若林幹夫
 3月27日 …サシバ2 (知人情報) 相馬利雄

野々下・古間木・宮園・総合運動公園地区

- 1月27日 …ハシビロガモ 和田椋甫
 3月13日 …ゴイサギ 和田椋甫
 3月16日 …ツバメ (今季初認) 和田椋甫

南流山地区

- 3月13日 …イツヒヨドリ 今泉好美

東初石・美田・駒木地区



ウグイス 2024.12.31



シジュウカラ 2025.01.09



スズメ 2025.01.09



ジョウビタキ 2025.01.10



メジロ 2025.02.04



メジロ 2025.02.08

市野谷・おおたかの森・大畔・西初石小鳥の森地区

- 1月20日 …ツグミ
- 2月 5日 …キセキレイ、シロハラ、ルリビタキ♂、アオジ
- 2月12日 …シロハラ、カケス、アオジ
- 2月13日 …トラツグミ
- 2月21日 …ケリ、カケス、アオジ、ツグミ、シロハラ
- 3月10日 …オオタカ
- 3月11日 …アオジ、トラツグミ、カケス、ツグミ、シロハラ、キセキレイ、ノスリ
ウグイス、コジュケイ
- 3月12日 …トラツグミ、キセキレイ、ヤマガラ、シロハラ、アオジ、ツグミ
- 3月14日 …トラツグミ、ツグミ、キセキレイ、シロハラ
- 3月13日 …クロジ
- 3月17日 …ルリビタキ (♂)、ヤマガラ、シロハラ、ツグミ、キセキレイ

菅野文夫
塚本清美
塚本清美
菅野文夫
塚本清美
菅野文夫
塚本清美
菅野文夫
塚本清美
菅野文夫
塚本清美

北小屋地区

- 2月21日 …ジョウビタキ、メジロ、シジュウカラ
- 3月22日 …ノスリ

若林幹夫
若林幹夫

中久木・美原・富士見台地区

- 2月21日 …ハイタカ

若林幹夫

東初石・美田・駒木地区

- 12月31日 …ウグイス
- 1月 1日 …ジョウビタキ (♀)
- 1月 9日 …シジュウカラ、スズメ
- 1月10日 …ジョウビタキ♀、シジュウカラ、メジロ
- 1月13日 …ウグイス、シジュウカラ、メジロ、スズメ
- 1月14日 …ジョウビタキ♀、シジュウカラ、メジロ
- 1月29日 …ウグイス、メジロ、スズメ
- 1月30日 …ウグイス、シジュウカラ、メジロ、スズメ
- 2月 4日 …シジュウカラ、メジロ、スズメ
- 2月 8日 …シジュウカラ、メジロ、スズメ
- 2月19日 …シジュウカラ、メジロ、スズメ
- 2月21日 …ツグミ
- 2月27日 …シジュウカラ、メジロ、スズメ

森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明
森岩好明



シジュウカラ 2025.02.19

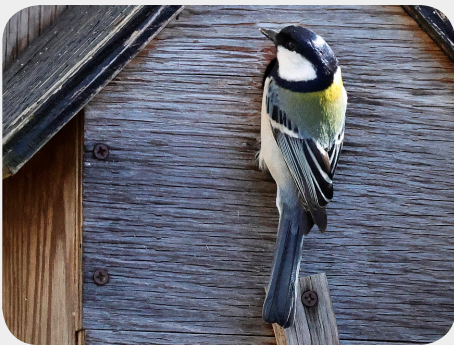


メジロ 2025.02.19



ツグミ 2025.02.21

利根運河・理窓公園地区



シジュウカラ 2025.02.27



ルリビタキ (♀) 2025.01.05



ルリビタキ (♀) 2025.01.18

利根運河・理窓公園地区

- 1月5日…ルリビタキ(♀タイプ)
ツグミ、アオジ、カワセミ、ジョウビタキ、コガモ、カルガモ
1月13日…オオタカ、ツミ、コウノトリ、エナガ
1月18日…ルリビタキ(♀タイプ)
トラツグミ、トモエガモ
1月24日…カシラダカ、ヤマガラ、カケス、アオジ、ウグイス
1月27日…クイナ、カケス、コジュケイ、ツグミ
2月20日…ツミ♀
3月27日…ルリビタキ(若♂と同定しました)、トラツグミ

森岩好明
鈴木淑子
大渡 修
森岩好明・相馬利雄
菅野文夫
大渡 修
今泉好美
相馬利雄
相馬利雄

東深井地区

- 1月18日…オオタカ(声だけ)、エナガ、シジュウカラ、コゲラ

鈴木淑子

柏の葉公園地区

- 1月24日…シロハラ

大渡 修

手賀沼地区

- 1月14日…ミコアイサ

大渡 修

浦安三番瀬

- 3月20日…カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、コサギ、ヒドリガモ、スズガモ、ウミアイサ、オオバン、コチドリ、イソシギ

森岩好明

★「鳥だより」をお寄せください。

【通勤、買い物途中などで見かけた鳥の身近な観察情報、初認情報などをお待ちしています。

【連絡先】若林幹夫 〒270-0127 流山市富士見台1-367-49

e-mail: mikio-wa@rf6.so-net.ne.jp

次号の「鳥だより」は6月20日までをお願いします。

会報『流山とりだより』充実にむけて——会員部からお願い

幹事が中心に執筆してきた会報『流山とりだより』ですが、より多くの会員の方にご寄稿・ご投稿いただき、“みんなで作る会報”にしていきたいと思っております。みなさんのご寄稿・ご投稿をお待ちしています。

◆観察会から……観察会ごとに原則お一人(ご家族などでの執筆もOK)

定例観察会や会員限定観察会のレポートです。「長い文章はちょっと……」という方は、次の事柄のみでもOKです。その他の基本情報や補足情報は幹事が適宜書き加えて仕上げます。

- ・その回の観察会で楽しみにしていたことは?
- ・観察した鳥で印象に残っているのは何? その鳥のどんなところが印象に残った?
- ・観察会に参加した感想や思ったことは?(楽しかった、暑かった、こんな場所があるなんて知らなかった、コースが短いor長い、次はどんな場所でどんな鳥が見てみたい、……等々、何でもOK)

上記以外でも観察会に直接・間接にかかわることなら自由にお書きください。長い文章の報告レポートも、もちろん大歓迎です。

◆鳥だより——フィールドノート拝見

日々の鳥の観察記録です。観察した月日、場所、鳥の種類、観察した方のお名前をお寄せください。同好会ホームページの「鳥だより(フィールドノート)」に投稿いただいても、若林宛にメールでお送りいただいてもOKです。会報発行の前月(3月、6月、8月、12月)の20日頃までのものをまとめて掲載します。

◆探鳥レポート、フィールドの紹介、図鑑や図書の紹介、鳥についての思い出、等々こうした文章もお待ちしています。

若林幹夫: mikio-wa@rf6.so-net.ne.jp 〒270-0127 流山市富士見台1-367-49

ホームページと会報の連携も今後考えていきます。よろしく願いいたします。

●表紙写真解説「あなたは、だあれ?」→ ルリビタキのオス若鳥と同定しました。

オスの成鳥はご存じの通り、全体が青色ですので分かりますね。表紙の個体は全体が青色ではなくて一見メスのようです。さあ、オスの若鳥とメスはどこが違うのでしょうか! モノクロ写真じゃわかりませんよね。ホームページの会員専用ページに、カラー版の4月号が掲載されています。ご覧あれ。参考までに同定のポイントは、

- ・クチバシの付け根の白さ加減(若オスはオス成鳥の眉斑にむけての微妙な白味あり)
- ・アイリングの幅加減(若オスは幅狭、メスは微妙に幅広)
- ・脇の朱色、尾羽の青さの濃さ加減(若オスはメスより濃いめ)
- ・背中の中味加減(若オスは小雨覆が微妙に青灰色。青灰色でない個体もいる)

と言われても、微妙な違いで頭が痛くなりそう。まして個体差もありますからね。

間違っていたらごめんなさい。もう参りました。

(この個体は、撮影日: 2025年1月5日~3月27日まで確認されました)

◆ 今後の行事予定

● 4月（第305回）定例観察会

4月20日（第3日曜日） 担当：森田 応援：相馬
場所：おおたかの森駅「水鳥の池」＋おおたかの森へ
集合：流山おおたかの森駅 東武線改札口前 午前9時（雨天中止）
解散：12時ころ 持物：弁当なし

● 会員限定 渡良瀬遊水地周辺の観察会 「注：Web会員は参加できません」

日時：（仮）5月18日（第1日曜日） 担当：菅野
場所：渡良瀬遊水地周辺
集合：（仮）JR古河駅西口 午前9時（雨天中止）
解散：15時ころ 弁当：持参
参加費：200円（当日、集合時に集金します）
※詳細は1ヵ月前にホームページにてお知らせいたします。

● 6月（第306回）定例観察会

日時：6月15日（第3日曜日）
場所：野田コウノトリの里 担当：相馬 応援：服部
集合：野田自然共生ファーム 江川管理棟前 午前9時10分（雨天中止）
解散：12時ころ 持物：弁当持参
※詳細は1ヵ月前にホームページにてお知らせいたします。

● 7月、8月の観察会はお休みとなります

● 9月以降の観察会は、「流山とりだより7月号」及び、ホームページでお知らせします。

★令和7年度分の会費納入についてのお願い★

未納の方は4月中に、年会費2,000円を払込票にて下記口座へお振込み下さい。
（ただし、家族会員は無料です。）

郵便振替口座：00130-3-608241 流山野鳥同好会

◆ 新入会員の紹介

和田椋甫さん、山下准司さん、近澤 宏・清美さん、森田方美さん、
鈴木瑞枝さん、千葉留美さん、よろしく申し上げます。

◆ 令和7年3月31日現在の会員数

単位会員43名＋家族会員21名＝合計64名

流山野鳥同好会会報 No. 151 2025年4月10日発行（年4回発行1月・4月・7月・10月）

発行人 相馬 利雄

連絡先 〒270-0163 千葉県流山市南流山6-27-11

TEL・FAX：04-7159-0972

郵便為替口座 加入者名「流山野鳥同好会」 口座番号：00130-3-608241

●あなたはだあれ？ 補足

会報制作後に、新たな識別ポイントを見つけました。

目の位置に注目です。

オスは、目の位置がクチバシよりやや下位。メスはやや上位ということです。

これも僅かな違いですが、クチバシを基準に比べられるので一番判断しやすいようです。

よ〜く見て下さい。下2枚が表紙のルリちゃんです。



ルリビタキ（オス若鳥）目の位置がクチバシより下位
（出展：ルリビタキの雌雄の見分け方 上2枚 WEBより参考写真）



ルリビタキ（メス）目の位置がクチバシよりやや上位



表紙の写真 目の位置はクチバシより上位？下位？
（2025.01.05 理窓公園 撮影：森岩好明）



左の個体 頭の角度を合わせるとクチバシより下位
（WEB参考写真のオス若鳥と同じ位置です）

この個体は、1月19日利根運河・理窓公園 観察会で見られたルリビタキです。オス若鳥で良しとしましょう。

でも写真判定しなきゃわからないわからないとは・・・ 現場の同定はどうすりゃいいの???

しょうがないですから青いのはオス成鳥、青くないのはメスタイプと分けましょうか。

それにしてもこのルリちゃん、12月末から3月末までいたんですね。今年の年末に青いルリがいたら、この子ですよ。

（流山とりだより 2025年4月号 補足）